



2024年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年7月14日

上場会社名 JNSホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 3627 URL https://www.jns.inc/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 昌史
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 藤代 哲 TEL (03) 6838-8800
四半期報告書提出予定日 2023年7月14日 配当支払開始 ー
予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万未満切捨て)

1. 2024年2月期第1四半期の連結業績（2023年3月1日～2023年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第1四半期	1,816	△3.7	△140	—	△94	—	△71	—
2023年2月期第1四半期	1,887	32.9	△41	—	2	—	△14	—

(注) 包括利益 2024年2月期第1四半期 16百万円 (△85.6%) 2023年2月期第1四半期 116百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第1四半期	△6.08	—
2023年2月期第1四半期	△1.21	—

2023年2月期第1四半期連結累計期間及び2024年2月期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第1四半期	7,637	5,558	72.1	471.01
2023年2月期	8,021	5,593	69.1	474.68

(参考) 自己資本 2024年2月期第1四半期 5,504百万円 2023年2月期 5,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2024年2月期	—	—	—	—	—
2024年2月期（予想）	—	0.00	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2024年2月期の連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	4,230	11.5	—	—	20	△62.4	15	△5.0	1.28
通期	10,200	17.8	—	—	500	29.4	360	36.9	30.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期1Q	12,346,000株	2023年2月期	12,339,500株
② 期末自己株式数	2024年2月期1Q	660,105株	2023年2月期	660,105株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期1Q	11,684,906株	2023年2月期1Q	11,930,881株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
経営成績に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（自2023年3月1日 至2023年5月31日）における日本経済は、アフターコロナに向けて経済活動・社会生活が正常化する動きが加速するなかで、1月～3月の実質GDP成長率は個人消費関連を中心に改善されたことにより、前期比0.7%、年率換算2.7%と3四半期ぶりのプラス成長となっています。

緊迫する海外情勢のなか、物価上昇や急激な為替変動など、社会経済情勢の懸念事項は存在するものの、教育、健康、決済、医療、行政などのDX（デジタルトランスフォーメーション）に対する取り組みの本格化が継続しており、今後もDX化に向けた設備投資が拡大していくことが予想されます。また、新型コロナウイルス感染症に対する世界的な規制緩和により、インバウンド需要の急速な回復や、国内における人出の増加による好循環が幅広く波及し、サービス業・小売業などが堅調に推移することが期待されています。

当社グループについては、2021年7月に日本国内で、2022年5月にアジア地域で発売し、爆発的なヒットとなったNintendo Switchソフト「クレヨンしんちゃん『オラと博士の夏休み』」の国内外の販売が一巡したことにより、今期においては、ライフデザイン事業が大きく減収となりました。一方で、同事業に属するヘルスケア、医療介護、FinTech等のBtoBサービスは堅調に拡大しています。AI&クラウド事業においては、AIチャットボットサービスやChatGPTソリューションなどのAI領域での事業拡大に向けて、開発のリソースを大きくシフトするとともに、一般法人向けの受託開発事業を縮小しております。コネクテッド事業においては、ODMが受注・生産ともに順調に拡大してきており、コロナ禍で低迷した前年同期に比べ約2倍の売上高となりました。また、今期においては大幅な円安が進行しましたが、為替予約オペレーションにより前年同期を上回る為替差益を計上しております。自社プロダクトであるaiwaデジタルについては、ラインアップを順次拡大するとともに、法人の認知拡大に向け量販店での展開を本格化しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,816,785千円（前年同期比4%減）、営業損失は140,111千円（前年同期は営業損失41,965千円）、経常損失は94,284千円（前年同期は経常利益2,335千円）、純損失は71,099千円（前年同期は純損失14,476千円）となりました。

セグメント別の事業動向については以下の通りです。

<ライフデザイン事業>

当第1四半期連結累計期間におけるライフデザイン事業の売上高は543,435千円（前年同期比43.7%減）、セグメント損失1,644千円（前年同期はセグメント利益150,779千円）となりました。

ライフデザイン事業においては、2021年7月にリリースしたNintendo Switchソフト「クレヨンしんちゃん『オラと博士の夏休み』」の販売が国内外において一巡し、販売数量が落ち着いてきたことにより、減収減益となりました。これに次ぐ新作ソフトの発売を今年度下期に予定しており、現在これに向けて鋭意、開発及び販売準備を推進しています。BtoBサービスの分野では、健康支援サービス「Renobody」とハウスマネー決済サービス「ValueWallet」の2本を展開しており、いずれも順調に推移しています。また、これらに加え、今期は酒販業界における受発注業務等のDX化を行う「スマはっちゅう」事業、さらに、医療介護業界向けのDXを支援する「KarteConnect」のサービスを開始しました。ソリューション事業では、教育コンテンツやヘルスケアサービスなど、当社の自社事業や技術面での強みを活かせる分野にフォーカスしており、それ以外の一般受託開発は縮小傾向にあります。

<AI&クラウド事業>

当第1四半期連結累計期間におけるAI&クラウド事業の売上高は425,311千円（前年同期比17.9%減）、セグメント損失193千円（前年同期はセグメント利益34,456千円）となりました。

AI&クラウド事業については、OpenAI社が開発した「ChatGPT」の活用が大きくシフトしており、AIチャットボットサービスにおける新規サービス“OfficeBOT powered by ChatGPT API”の展開や、企業、自治体、通信キャリア等におけるChatGPT活用ニーズに対応したソリューション開発の提供など、AI事業拡大に向け多面的な展開を行っています。また、AIチャットボットやクラウドアドレス帳などのSaaS形式でのサービス事業拡大に向けて販売体制の強化とマーケティング活動の拡充も進めています。これにより、一般法人向けの受託開発事業は縮小傾向にあること、加えてAI分野での先行投資が発生していること等の影響があり、当セグメントは昨年度に比べ減収減益となりました。

<コネクテッド事業>

当第1四半期連結累計期間におけるコネクテッド事業の売上高は872,108千円（前年同期比95.1%増）、セグメント損失は60,313千円（前年同期はセグメント損失144,094千円）となりました。

コネクテッド事業については、開発から保守、サポートまで一気通貫で対応できるODM事業がアフターコロナのなか、着実に復調してきており、見守りGPSやモビリティ向けBluetoothインカムマイク、また直近では、ピクシーダス

トテクノロジーズ株式会社の聞こえにくさのある人の円滑なコミュニケーションを実現するサービス「VUEVO」のデバイスの受託等、新規案件も順調に拡大しており、コロナ禍で低迷していた前年に比べ約2倍の売上高となりました。また、2023年3月より中国製造拠点の拡張移転を行い、新工場における生産を開始しており、生産コストの低減や生産効率や品質の向上とともに増産に耐えうる体制を確保しております。また、依然として為替変動が激しい環境のなか、為替予約オペレーションを継続しており、今期は大幅な円安となった結果、前年以上の為替差益を計上しました。aiwaデジタルについては、新たに電子楽器「aiwa play RX01」やスマートフォン「aiwa phone B-2」などをリリースするとともに、法人向け認知度向上に向け量販店での展開強化に取り組んでいます。

当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しており、前年同期比較については、変更後のセグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

また、セグメント別の事業動向に記載の各セグメントの売上高については、外部顧客への売上高にセグメント間の内部売上高又は振替高を加えた金額を記載しております。詳細は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,983,960	3,062,021
受取手形、売掛金及び契約資産	1,705,890	1,062,448
商品及び製品	317,461	244,055
仕掛品	246,024	299,361
原材料	354,499	267,061
関係会社短期貸付金	100,000	—
前渡金	98,507	167,741
その他	354,646	419,499
流動資産合計	6,160,990	5,522,189
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	128,712	152,115
車両運搬具（純額）	1,732	2,152
器具備品（純額）	78,393	77,598
建設仮勘定	1,433	1,433
有形固定資産合計	210,272	233,299
無形固定資産		
ソフトウェア	211,522	345,992
ソフトウェア仮勘定	329,524	373,936
のれん	2,891	—
その他	7,573	8,195
無形固定資産合計	551,511	728,124
投資その他の資産		
投資有価証券	717,300	792,003
関係会社出資金	—	118
繰延税金資産	182,156	181,221
差入保証金	207,909	189,289
その他	28,882	28,575
貸倒引当金	△37,131	△37,131
投資その他の資産合計	1,099,116	1,154,077
固定資産合計	1,860,900	2,115,502
資産合計	8,021,890	7,637,692

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	357,787	228,061
1年内返済予定の長期借入金	399,016	389,964
未払法人税等	5,866	2,334
契約負債	128,840	179,346
賞与引当金	215,515	61,835
製品保証引当金	40,637	20,994
その他	435,505	451,114
流動負債合計	1,583,169	1,333,651
固定負債		
長期借入金	792,196	703,080
繰延税金負債	10,955	1,658
資産除去債務	35,368	35,458
その他	6,236	5,443
固定負債合計	844,755	745,640
負債合計	2,427,924	2,079,291
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,403,000	2,403,345
資本剰余金	1,511,991	1,512,335
利益剰余金	1,794,478	1,664,727
自己株式	△297,166	△297,166
株主資本合計	5,412,304	5,283,241
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,250	75,852
繰延ヘッジ損益	△22,173	3,119
為替換算調整勘定	143,538	142,003
その他の包括利益累計額合計	131,615	220,975
新株予約権	50,045	53,763
非支配株主持分	—	419
純資産合計	5,593,965	5,558,400
負債純資産合計	8,021,890	7,637,692

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
売上高	1,887,092	1,816,785
売上原価	1,210,847	1,231,627
売上総利益	676,245	585,157
販売費及び一般管理費	718,210	725,268
営業損失(△)	△41,965	△140,111
営業外収益		
為替差益	45,223	44,831
その他	2,427	4,075
営業外収益合計	47,651	48,906
営業外費用		
支払利息	2,589	1,855
持分法による投資損失	505	—
その他	255	1,225
営業外費用合計	3,350	3,080
経常利益又は経常損失(△)	2,335	△94,284
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	2,335	△94,284
法人税等	16,811	△21,669
四半期純損失(△)	△14,476	△72,615
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△1,516
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△14,476	△71,099

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
四半期純損失(△)	△14,476	△72,615
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,490	65,602
繰延ヘッジ損益	15,562	25,292
為替換算調整勘定	88,501	△1,534
その他の包括利益合計	130,553	89,359
四半期包括利益	116,077	16,744
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	116,077	18,260
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1,516

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ライフデザイン 事業	AI&クラウド事 業	コネクテッド 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	961,569	485,317	440,204	1,887,092	—	1,887,092
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	2,880	32,985	6,846	42,711	△42,711	—
計	964,449	518,303	447,050	1,929,804	△42,711	1,887,092
セグメント利益又 は損失(△)	150,779	34,456	△144,094	41,140	△83,105	△41,965

(注) 1. セグメント利益の調整額△83,105千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△75,229千円、のれんの償却額△8,674千円が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自2023年3月1日至2023年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ライフデザイン 事業	AI&クラウド事 業	コネクテッド 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	543,017	408,989	864,778	1,816,785	—	1,816,785
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	418	16,322	7,329	24,070	△24,070	—
計	543,435	425,311	872,108	1,840,855	△24,070	1,816,785
セグメント損失 (△)	△1,644	△193	△60,313	△62,151	△77,959	△140,111

(注) 1. セグメント利益の調整額△77,959千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用△75,493千円、のれんの償却額△2,891千円が含まれております。全社費用は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

ICT市場における技術革新や顧客動向などの事業環境が変化中、中長期的な企業価値向上に向けた経営戦略の再構築に合わせ、当第1四半期連結会計期間より、「ライフデザイン事業」、「ビジネスイノベーション事業」、「コネクテッドソリューション事業」としていた従来の報告セグメントを、自社サービス展開による優位性を活かしたヘルスケア・教育・決済等のライフデザインソリューションを強化し、従来セグメントを拡張した「ライフデザイン事業」、これまで展開してきたチャットボットやSaaS事業の知見を活かし、AIとクラウドにフォーカスしたサービス&ソリューション事業への取り組みを強化した「AI&クラウド事業」、深圳のサプライチェーンを活用したコネクテッドデバイスの企画/開発/製造とデバイス・クラウド・ネットワーク一体型のソリューションの提供に加え、自社製品の提供を強化・拡大した「コネクテッド事業」の3つの報告セグメントへと変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。